

令和2年度事業報告書

公益財団法人徳川黎明会

I. 管理部門

令和2年度は、年度を通じて、新型コロナウイルスの世界的蔓延、国内における感染拡大が依然として収まらず、当財団の事業運営においても、甚大な影響を受けた。国、地方自治体等、各行政による緊急事態宣言の発出、まん延防止等重点措置の適用などにおける要請への協力・対応をはじめ、本部、徳川林政史研究所、徳川美術館、全事業所における感染防止に努め、公的支援制度も利用しつつ、個別事業についても、社会的状況を見ながら、都度、対応を検討し、適宜執行した。

1. 業務執行体制

本年度は、理事1名の退任、研究所長の交代があったが、未曾有の国難が続く中で、法人事業活動を推進すべく、引き続き、研究所、美術館との連携、協調、協力を努め、全般を統括した。

2. 諸制度・諸規程見直し・労務管理

本年度は、政府による働き方改革に伴い、諸制度・諸規程について、さらなる見直し検討、改善準備を重ねつつ、主として、労務管理体制を見直し、勤怠管理システムを導入・更新し、本部、美術館、顧問事務所における連携、処理の合理化・効率化を図った。一方、収束の見えない非常事態に、各事業所におけるウイルス感染防止のため、年度を通じ、随時通達、注意喚起を徹底し、当初入手困難となったマスクの配布をはじめ、基本的な感染防止行動の励行、オフピーク通勤、在宅を含めた勤務シフトなどの体制（外出機会・人的接触機会の抑制）を敷き、特別休暇を付与するなど、関係者、外来者の感染リスク軽減や相互に与える影響にも留意しながら、従業員の健康、安全衛生管理に努めた。幸いにも、年度を通して、感染者の発生はなかった。

3. 寄附公募活動

本年度も、引き続き、美術館、研究所と連携し、寄附を広く募った。また、履行が遅れていた美術館における寄附受付・管理運用体制、環境改善について促進し、年度内に一定の改善を実現した。

4. 監事監査

令和2年度の業務・会計等監査について、下記のとおり執り行われた。

日時： 令和3年6月1日/13時00分より

場所： 当財団/本部会議室

対象： 業務、会計、理事の職務執行

5. 理事会・評議員会

(1) 理事会

・ 第1回（定時・書面）

日時： 令和2年10月12日

場所： 当財団/本部会議室

議案： 第1号議案/決議の省略について

第2号議案/令和1年度事業報告について

第3号議案/令和1年度収支決算について

第4号議案/参事ならびに徳川林政史研究所所長の任命について

第5号議案/任期満了に伴う役員の改選について

第6号議案/令和2年度定時評議員会開催について

第7号議案/決議日について

結果： 全議案について、理事一同異議なく議決された（書面によるみなし決議）。

・ 第2回（臨時・書面）

日時： 令和2年11月4日

議案： 第1号議案／決議の省略について

第2号議案／代表理事、業務執行理事（常務理事）の選定について

第3号議案／決議日について

結果： 全議案について、理事一同異議なく議決された（書面によるみなし決議）。

・ 第3回（臨時・対面）

日時： 令和2年11月17日／13時00分から13時52分まで

報告： 代表理事・業務執行理事（常務理事）の職務執行状況報告について

結果： 本報告について、出席理事一同異議なく承認された。

・ 第4回（定時・対面）

日時： 令和3年3月23日／15時00分から16時56分まで

場所： 当財団／本部会議室

議案： 第1号議案／令和3年度事業計画について

第2号議案／令和3年度収支予算について

第3号議案／令和3年度資金調達及び設備投資について

第4号議案／相談役の選任について

結果： 全議案について、出席理事一同異議なく議決された。

(2) 評議員会

・ 第1回（定時・書面）

日時： 令和2年10月23日

場所： 当財団／本部会議室

議案： 第1号議案／決議の省略について

第2号議案／令和1年度収支決算について

第3号議案／任期満了に伴う役員の改選について

第4号議案／決議日について

結果： 全議案について、評議員一同異議なく議決された（書面によるみなし決議）。

・ 第2回（臨時・対面）

日時： 令和2年11月30日／15時00分から16時12分まで

場所： 当財団／本部会議室

報告： 代表理事・業務執行理事（常務理事）の職務執行状況報告について

結果： 本報告について、出席評議員一同異議なく承認された。

6. 官庁申請・届出・報告

・ 内閣府関係

下記について、電子申請システム（公益 Information システム）経由にて提出・報告した。

令和2年11月 令和1年度事業報告及び収支決算

令和3年3月 令和3年度事業計画及び収支予算

・ 労務関係

下記について、池袋労働基準監督署及び名古屋北労働基準監督署に届出た。

令和3年3月・4月 36 協定書

※ その他、国ほかによる各種調査に協力した。

7. 役職員等の状況（令和3年3月31日現在）

(1) 役員等

評議員6名、役員7名、相談役2名、合計15名

① 評議員

職位	氏名	現職
評議員会長	田中 秀隆	(公財)三徳庵理事長
評議員	太田 宏次	(公財)東洋医学研究財団名誉理事長
評議員	小林 喬	富国生命保険(相)相談役
評議員	濱本 英輔	(株)ハーフ・センチュリー・モア顧問
評議員	原 俊夫	(公財)アルカンシエール美術財団理事長
評議員	室瀬 和美	(株)目白漆芸文化財研究所相談役

② 理事

職位	氏名	現職
代表理事 (会長)	徳川 義崇	徳川美術館館長・八雲産業(株)代表取締役
常務理事	深井 雅海	徳川林政史研究所所長
理事	小林 忠	岡田美術館館長・学習院大学名誉教授
理事	徳川 斉正	(公財)徳川ミュージアム理事長
理事	前田 利祐	(公財)前田育徳会評議員

③ 監事

職位	氏名	現職
監事	降旗 京二	降旗公認会計士事務所所長
監事	松平 頼昌	(学)本郷学園理事長

④ 相談役

職位	氏名	現職
相談役	竹内 順一	東京藝術大学名誉教授
相談役	竹田 憲央	八雲産業(株)常務取締役兼総務部長

(2) 職員等

区分	常勤	非常勤	計
職員	21	1	22
雇員	5	0	5
嘱託	1	5	6
臨時	0	20	20
派遣	0	0	0
合計	27	26	53

(3) 協力者等

区分	常勤	非常勤	計
参与	0	8	8
特任研究員	0	15	15
非常勤研究員	0	11	11
非常勤研究生	0	4	4
非常勤学芸員	0	3	3
合計	0	41	41

II.公益目的事業

[公益目的事業 1] 美術館の運営事業（徳川美術館）

令和 2 年度は、収束の見えないコロナ禍に、当初 21 万人強を見込んでいた来館者数が、これを大幅に下回る 6 万人台となり、極めて大きな影響を蒙るところとなった。年度初頭、全国を対象に発出された緊急事態宣言（4 月 16 日から 5 月 14 日まで）及び愛知県独自の緊急事態宣言（4 月 9 日から 5 月 26 日まで）により、4 月 8 日から 6 月 1 日までの間、第 2 回目の臨時休館（第 1 回目は、前年度末 2 月 29 日から 3 月 23 日まで）を余儀なくされ、当初事業計画のうち、春季特別展「家康から義直へ ー尾張藩誕生物語ー」は、やむなく次年度での開催へと延期せざるを得なくなり、6 月 2 日からの再開館後においても、企画展「祈りのこころ ー尾張徳川家の仏教美術ー」は開催し得たものの、同時開催を予定していた特別展「刻を描く 田淵俊夫」の開催も、同様に次年度へ延期せざるを得なかった。その後も再び、愛知県独自の緊急事態宣言（8 月 6 日から 24 日まで）が発出され、さらに、年明け 1 月 7 日に発出された 4 都県対象の緊急事態宣言が、同月 14 日には、愛知県を含む 7 府県にも拡大された。6 月 2 日以降については、臨時休館することなく通常開館し、感染症対策を講じつつ、予定した展覧会を逐次開催してきたが、秋季恒例の徳川茶会は中止せざるを得ず、各種講演会・講座等のイベントやボランティア活動も中止又は人数制限・規模縮小を行わざるを得なかった。このような中、緊急事態宣言下でない期間においても、来館者数は低迷し、期末における対前年度比では、約 70%減少という結果となった。他方、本年度においては、4 月に成立、5 月に施行された、「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」（「文化観光推進法」）の下、「地域計画」及び「拠点計画」の申請受付が行われ、当館は、「徳川美術館の文化観光拠点計画」を策定・申請し、8 月に文部科学大臣及び国土交通大臣より、「拠点計画」としての認定を受けるところとなった。これにより、令和 7 年度までの 6 カ年計画として、文化庁の実施する「文化観光拠点施設機能強化事業」による助成を得つつ、文化観光推進の観点から、施設整備を含む、文化財の魅力増大のための諸般のリニューアル事業を実施することとなった（同計画は、他 24 件の「地域計画」及び「拠点計画」とともに、文化庁ホームページ上で公開されている）。コロナ禍の収束は、依然として見通せず、当館の運営も厳しい状況が継続しているが、引き続き、ウイルス感染防止策を徹底実施するとともに、経費削減、収益増大、事業の安定的な継続、収束後を見据えた来館者数増に向け、一層努める方針である。

1. 美術品の展示・公開・保存・修理・収集

(1) 展示・公開

事業計画に基づき、以下の展示・公開を行った。これにより、①、②、③に記載した展示による来館者数合計は、62,717 名となった。

① 名品コレクション展示室（新館第 1～第 5 展示室）

「名品コレクション展」として、年度内に 4 回、大展示替えを行ったほか、約 1 か月毎に部分展示替えを実施し、各展示室にて特集展示を行った。第 6 展示室では、年度を通じ、「国宝 源氏物語絵巻（複製）」及び同絵巻の解説（動画映像を含む）を展示した。臨時休館期間（4 月 8 日～6 月 1 日）及び特別展・企画展開催期間を除く、新館展示室のみの開館日の来館者数合計は 2,148 名であった。

期間 1 (a. 3 月 31 日～4 月 28 日、b. 4 月 29 日～5 月 26 日、c. 5 月 27 日～6 月 21 日)

期間 2 (a. 6 月 23 日～7 月 21 日、b. 7 月 22 日～8 月 25 日、c. 8 月 26 日～9 月 22 日)

期間 3 (a. 9 月 24 日～10 月 20 日、b. 10 月 21 日～11 月 17 日、c. 11 月 18 日～12 月 13 日)

期間 4 (a. 1 月 5 日～1 月 31 日、b. 2 月 2 日～3 月 2 日、c. 3 月 3 日～3 月 28 日)

このうち、第 5 展示室では、期間 3 (b.・c.) において、「国宝 初音の調度」修復後の初公開として、見台二基・旅香具箱一式の特別展示を行った。

② 特別展（本館第 7～第 9 展示室）

4 月 8 日～6 月 1 日の間は、臨時休館に伴い、以下の特別展は、開催を次年度へ延期とした。

a. 4 月 12 日～5 月 31 日 春季特別展「家康から義直へ ー尾張藩誕生物語ー」

- 名古屋市蓬左文庫、(株)中日新聞社、(株)日本経済新聞社共催
 特別展「刻を描く 田淵俊夫」
 (株)中日新聞社、(株)日本経済新聞社共催
- b. 6月6日～7月12日
- 6月2日、緊急事態宣言解除により、再開館し、以後、事業計画に基づき、以下の特別展を開催した。
 特別展への来館者数合計は、39,898名であった。
- c. 7月18日～9月13日 特別展「漆 ー徳川美術館珠玉の名品ー」
 (株)中日新聞社、(株)読売新聞社共催
 来館者数計 12,242名
- d. 9月20日～11月3日 秋季特別展「殿さまが好んだヨーロッパ ー異国へのまなざしー」
 名古屋市蓬左文庫、(株)中日新聞社、(株)日本経済新聞社共催
 来館者数計 11,672名
- e. 2月6日～4月4日 特別展「尾張徳川家の雛まつり」
 (株)中日新聞社共催
 来館者数計 15,984名 (年度末まで)、17,675名 (会期末まで)

③ 企画展 (名古屋市蓬左文庫展示室)

事業計画に基づき、名古屋市との協力の下、以下の企画展を開催した。a・d・eの各展覧会の来館者数は、合計 19,800名であった。b・c・fの各展覧会は、上記 1.(1)②c～e.と同時開催のため、来館者数は同数である。なお、4月12日～5月31日の間、予定した春季特別展「家康から義直へ ー尾張藩誕生物語ー」は、上記 1.(1)②a.と同一の展覧会であり、臨時休館に伴い、開催を次年度へ延期とした。

- a. 6月6日～7月12日 企画展「祈りのこころ ー尾張徳川家の仏教美術ー」
 来館者数計 4,639名
- b. 7月18日～9月13日 企画展「怪々奇々 ー鬼・妖怪・化け物…ー」
 上記 1.(1)②c.と同時開催
- c. 9月20日～11月3日 秋季特別展「殿さまが好んだヨーロッパ ー異国へのまなざしー」
 上記 1.(1)②d.と同時開催
- d. 11月8日～12月13日 企画展「読み継がれた源氏物語」
 来館者数計 11,983名
- e. 1月5日～1月31日 企画展「竹 ー日本の美ー」
 (株)毎日新聞社共催
 来館者数計 3,178名
- f. 2月6日～4月4日 企画展「尾張の百科事典 ー御秘本『張州雑誌』ー」
 上記 1.(1)②e.と同時開催

④ 特別公開 (新館第2展示室)

2月20日～3月2日の間、「千利休 泪の茶杓」の特別公開を実施した (毎年度と同様)。

⑤ 特別観覧

- a. 徳川茶会 (茶室餘芳軒及び山の茶屋)
 年度当初、10月10日、16日、17日、23日、24日、30日、31日、11月3日、7日 (計9日間) の開催を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全て中止とした。
- b. 研究者等特別観覧 (当館収蔵庫)
 大学等、学術・研究機関、他館等からの要請に応じ、特別観覧を実施した (全16件)。

⑥ 他館主催展覧会への収蔵品出陳

岐阜市歴史博物館「NHK大河ドラマ特別展 麒麟がくる」展 (9月18日～11月3日)、東京国立博物館「桃山 ー天下人の100年ー」展 (10月6日～11月29日) など、他館主催の展覧会に対し、延べ10館、51件の当館収蔵品 (うち、寄託品18件、複製品1件) を出陳した。

⑦ 館外展示

刈谷市歴史博物館に対し、当館収蔵品 51 件を出陳し、同市市制施行 70 周年記念企画展「徳川家康の遺産 徳川美術館所蔵品で綴る」を実施した（10月3日～11月15日）。

⑧ 他館ほか、所蔵者からの借用作品の展示

各特別展・企画展のテーマに即し、合計 209 件の作品を借用し、展示した。

(2) 保存・収集・修理

① 保存・収集

以下の普通美術品を受贈した（計 6 件）。

日月図 田中訥言筆 対幅、紅綸子地梅樹に巻絹文打掛（振袖） 一領、豆市松人形 一躰、衣裳人形（鞆鼓打） 二躰、衣裳人形（犬の散歩） 一躰、押絵羽子板 一枚

② 修理

以下の修理を実施した。なお、修理費に係る自己負担分については、活動支援基金を充当した。

a. 基本美術品（計 1 件）

- ・ 「国宝 婚礼調度類（徳川光友夫人千代姫所用）」（「初音調度」）

初音蒔絵書棚（棚囲い・龍膽七宝繫） 一基、胡蝶蒔絵書棚 一基

これらの修理に対しては、国宝重要文化財等保存・活用事業費（国庫補助美術工芸品保存修理事業）及び文化財保存事業費（愛知県文化財保存事業）並びに（公財）住友財団文化財維持・修復事業による助成を受けた。

b. 普通美術品（計 3 件）

- ・ 白・納戸細格子と茶・花色・黄・赤・白横縞腰替熨斗目 一領

この修理に対しては、（公財）三菱財団文化財修復事業による助成を受けた。

- ・ 茶地間道仕覆（間道挽家仕覆）瀬戸米市手茶入附属 一点

- ・ 花色地龍ニ花唐草文緞子仕覆（珠光緞子仕覆）唐物文茄茶入附属 一点

(3) 収蔵品撮影（館内）

各展覧会のための広報用及び図録作成用に、収蔵品の撮影を行った（合計 94 件、169 カット）。

2. 調査・研究

(1) 美術館における調査・研究

事業計画に基づき、学芸部において、以下の研究を行った（括弧内は開始年度）。

- ①館蔵品悉皆調査（昭和 63 年度）、②尾張徳川家御道具帳のデータベース化（平成 27 年度）、③尾張徳川家関係寺社蔵品調査（昭和 58 年度）、④尾張徳川家に関連する政秀寺所蔵什宝の調査（平成 20 年度）、⑤幕末明治浮世絵の研究（令和 2 年度）、⑥尾張藩御用絵師の研究（令和 2 年度）、⑦大名家における絵師の絵画活動についての研究（平成 6 年度）、⑧尾張における画家の活動についての研究—田中訥言を中心に—（平成 11 年度）、⑨武家女性の生活史の研究（平成 29 年度）、⑩「阿蘭陀」の研究（令和元年度）、⑪中近世「唐物」工芸品の研究（令和元年度）、⑫尾張徳川家旧蔵の古典籍及び文書についての研究（平成 8 年度）、⑬渡来織物の調査研究（平成 29 年度）、⑭近世狩野派の研究（平成 24 年度）、⑮戦国合戦図の総合的研究（平成 28 年度）※、⑯戦国軍記・合戦図の史料学的研究（令和 2 年度）※、⑰江戸初期絵画の研究（平成 24 年度）、⑱尾張徳川家茶頭の研究（令和 2 年度）、⑲尾張徳川家の仏教絵画の研究（令和 2 年度）、⑳高雄曼茶羅の復元と空海の造形観の研究（平成 30 年度）※、㉑近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究（平成 29 年度）※

※ ⑮は、東京大学史料編纂所特定共同研究

※ ⑯、㉑、㉒は、文部科学省科学研究助成事業の分担研究者として実施

(2) 徳川林政史研究所との連携による研究（前年度より継続）

以下、引き続き、各項の研究を行い、徳川林政史研究所研究員との緊密な連携の下に、歴代当主の事績や年譜に関する情報を共有するなど、相互の研究の深化に努めた。

- ・ 尾張徳川家歴代藩主に関する史料調査・研究
 - ・ 尾張徳川家関連古写真資料に関する基礎調査・研究
- (3) 収蔵品データベースの整備（前年度より継続）
以下の、各項整備を実施した。
- ・ 調書作成・入力
 - ・ 写真データ作成・入力
 - ・ 展示作品リスト・キャプション用データ整備・入力
 - ・ リスト・キャプションの作成
- (4) 研究用図書類の整備
- ① 図書（購入、計 33 冊、受贈、計 197 冊）
- 『仏教説話画論集 下巻』（加須屋誠著／中央公論美術出版）、『永青文庫叢書 細川家文書 地域行政編』（熊本大学永青文庫研究センター／吉川弘文館）、『光琳論』（仲町啓子著／中央公論美術出版）、『史料纂集 古記録編』（八木書店）、『大日本史料』（東京大学出版会）ほかの書籍を購入し、『尊経閣善本影印集成』（前田育徳会尊経閣文庫編／八木書店）、『河合正朝絵画史論集 下巻』（河合正朝著／中央公論美術出版）、『武士の絵画』（杉本欣久著／中央公論美術出版）ほかの書籍を受贈した。
- ② 雑誌（購入、計 140 冊、受贈、多数）
- 『國華』（國華編集委員会編／國華社）、『美術フォーラム 21』（美術フォーラム刊行会）、『日本人形玩具学会誌』（日本人形玩具学会）、『貿易陶磁研究』（日本貿易陶磁研究会）ほかの雑誌を購入し、『茶道の研究』（大日本茶道学会／三徳庵）、『美術研究』（東京文化財研究所）、『MUSEUM』（東京国立博物館）、『茶の湯文化学』（茶の湯文化学会）ほかの雑誌を受贈した。
- (5) 研究成果の公開・公刊
以下の通り、研究成果を公開・公刊した。
- ① 定期研究発表会
- 12月12日（第76回）
「料紙から見えてきた「国宝 源氏物語絵巻」－修理報告を兼ねて－」 四辻 秀紀（特任学芸顧問）
- 3月13日（第77回）
「尾張徳川家江戸麴町屋敷 御成御殿の障壁画について」 薄田 大輔（学芸員）
- ② 図録、研究紀要等
- a. 図録作成
企画展「読み継がれた源氏物語」、刈谷市歴史博物館「徳川家康の遺産 ー徳川美術館所蔵品で綴るー」展用各図録（簡易版含む）
- b. 『金鯉叢書』第48輯の編集・刊行
- (6) 美術館だよりの編集・発行（年度内4回）
4月、7月、9月、1月に、『葵』第114～117号を編集・発行した。
- (7) 大名道具収蔵館研究会（平成4年度より継続）
11月に、福井市立郷土歴史博物館にて開催を予定していたが、中止となった。

3. 教育・普及

以下の諸事業を実施した。なお、中止・延期したものを除く、全ての講演会・講座等において、感染症予防対策を徹底した上で実施のところ、ウイルス感染者の発生はなかった。

(1) 特別展記念講演会

9月20日 「日蘭貿易の華 ー絵画から工芸までー」 勝盛 典子（香雪美術館・中之島香雪美術館館長）

2月28日 「記録画に挑んだ東甫」 山本 祐子（元名古屋市博物館学芸員）

なお、5月9日に予定した、「尾張徳川家の成立と将軍家 ー家康の遺命と義直ー」白根 孝胤（中京大学教授・徳川林政史研究所特任研究員）、6月21日に予定した、特別展「刻を描く 田淵俊夫」記念対

談（田淵 俊夫（作家本人）氏と神谷 浩（副館長兼学芸部長））は、次年度へ延期した。

(2) 土曜講座「大名の生活と文化」（各講座の講師は、学芸員、非常勤学芸員、名古屋市蓬左文庫学芸員）

- 6月27日 「尾張徳川家の仏教美術」
- 8月1日 「妖怪画の系譜」
- 8月29日 「蔵帳にみる尾張徳川家の道具管理」※
- 9月5日 「漆のはなし」
- 10月3日 「大名家と南蛮・阿蘭陀」
- 11月14日 「源氏物語絵巻 桐壺」を読み解く」
- 1月23日 「江戸時代に制作された古絵巻模本について」※
- 2月13日 「『張州雑誌』とは何ぞや」
- 3月6日 「大名と浮世絵」

※ 8月29日は、前年度3月14日付開講予定講座を延期して実施し、1月23日は、オンラインにて実施。
なお、4月18日に予定した、「徳川義直の著作」、5月16日に予定した、「神となった家康、東照大権現の表象」は、次年度の土曜講座にて実施することとし、延期した。

(3) 秋期講座「工芸をめぐる近世ヨーロッパとアジアの交流」

- 9月26日 「祇園祭を飾るインド絨毯－江戸時代の日本とイスラーム染織品－」
鎌田 由美子（慶應義塾大学准教授）
- 「中国・日本磁器からセーヴル、マイセンへ」
長久 智子（学芸部マネージャー）
- 9月27日 「彦根藩主が蒐集した更紗に見る東西交流」
小山 弓弦葉（東京国立博物館工芸室長）
- 「輸出漆器：東洋らしさを纏うもの」
永島 明子（京都国立博物館教育室長）

(4) 徳川林政史研究所による古文書入門講座「江戸時代の古文書を読む」（土曜日午後開講）

以下を予定したが、すべて次年度へ延期した。

- 6月6日 「幼少当主を支えた付家老－成瀬正寿を中心に－」 深井 雅海（所長）
- 6月13日 「天保期の風俗と「関八州教諭状」」 佐藤 孝之（特任研究員）
- 7月4日 「若き殿様 徳川齊温の江戸名所めぐり」 白根 孝胤（特任研究員）
- 7月11日 「徳川齊荘の岐阜紀行(1)」 藤田 英昭（研究員）
- 7月18日 「飛騨郡代豊田友直の天保林政改革」 萱場 真仁（研究員）
- 7月25日 「徳川齊荘の岐阜紀行(2)」 藤田 英昭

(5) 徳川林政史研究所による江戸学講座「尾張藩祖 徳川義直」（土曜日午後開講）

- 12月5日 「徳川義直の刀剣献上・贈与」 深井 雅海
- 1月9日 「徳川義直の治世と付家老」 白根 孝胤
- 1月16日 「徳川義直の人生と思想」※ 川島 孝一（非常勤研究員）
- 2月6日 「徳川義直をめぐる女性たち」※ 藤田 英昭

※ 1月16日、2月6日は、オンラインにて実施。

(6) 担当学芸員の見どころガイド

従来の「ギャラリートーク」に代え、感染症予防対策を徹底した講堂において、短時間の「見どころガイド」として、実施した。特別展「殿さまが好んだヨーロッパ－異国へのまなざし－」、企画展「読み継がれた源氏物語」、「竹－日本の美－」、「尾張の百科事典－御秘本『張州雑誌』－」の各展において、各担当学芸員が、合計4回実施した。

(7) 特別展・企画展関連企画

- ① 企画展「祈りのこころ－尾張徳川家の仏教美術－」関連
鑑賞のポイント（全20ページ、デジタル版）を作成し、ホームページ上に掲載した。また、これにリンクするQRコードを展示室等に掲出した。
- ② 企画展「怪々奇々－鬼・妖怪・化け物…－」関連

百鬼夜行絵巻パネルを作成し、蓬左文庫展示室に掲出した。

- ③ 企画展「読み継がれた源氏物語」(文化庁補助事業)
- a. 電子ブック用デジタルコンテンツ「国宝 源氏物語絵巻の世界へようこそ」(日本語版・英語版)を作成し、蓬左文庫ガイダンスホールにて、タブレット端末を無料で貸し出すとともに、ホームページ上に掲載した。
 - b. 展覧会紹介リーフレット(日本語・英語・繁体字・簡体字・ハングル)を作成し、蓬左文庫展示室にて、無料配布した。

④ 企画展「竹ー日本の美ー」関連

1月5日 新春揮毫 川崎 尚麗(毎日書道展審査会員)

⑤ 特別展「尾張徳川家の雛まつり」関連

- a. 2月6日～3月7日 文化のみち雛巡りシール・ラリー
- b. 2月20日 オリジナル香袋・文香をつくる体験講座
- c. 2月23日、3月11、21日 お姫様の遊び 貝合わせ「体験&制作」講座
- d. 3月2日 「雛人形のいろは話とくるみぼたんヘアアクセサリ制作講座」※
- e. YouTube上に、「徳川美術館チャンネル」を新設し、展覧会の見どころ動画を公開するとともに、館内ホールにて放映し、また、ホームページ上に掲載した。

※ d.については、感染症予防の観点から中止した。

⑥ 企画展「尾張の百科事典ー御秘本『張州雑誌』ー」関連

鑑賞ポイント解説シート(A3版両面四折)を作成し、蓬左文庫展示室にて無料配布した。なお、春季特別展「家康から義直へー尾張藩誕生物語ー」関連で予定していた、本年度ゴールデンウィーク特別企画「武将と刀 記念撮影コーナー」は、臨時休館により、中止した。

(8) 組香体験(個人向け)は中止した。

(9) 土曜子ども教室の開催(小中学生向け教育・普及、※小中高生の観覧料は無料)

① 土曜子ども教室

4月4日～3月27日の間(計36日間。なお、4月11日、18日、25日、5月2日、9日、16日、23日は、臨時休館等により中止)、毎週土曜日、1日3回、各約60分、小学校・中学校の児童及び生徒を対象に実施した。感染予防策として、ボランティアによるサポートは中止とし、参加者にワークシートを配布するのみとして、体験型のワークショップは中止した。

参加者計332名(子ども213名、大人119名)

② 体験学習・校外学習の受け入れ

体験学習(刀解体組立、火縄銃に触れる、甲冑着装等を体験後、館内を見学)に、大学1校(参加者計14名)、校外学習(美術館紹介と作品解説)に、中学校1校(参加者計75名)、高校2校(参加者計18名)、短期大学・大学3校(参加者計55名)、出張教室(刀剣・火縄銃・貝あわせ)に、小学校1校(参加者計35名)の参加を得て、各々実施した。

(10) 夏休み子ども特別企画(8月1日～8月30日)

「妖怪ブック」、「妖怪シール」を作成し、館内にて無料配布した(配布数579部)。

(11) 名刀シール・ラリー(9月24日～3月28日)

感染症予防の観点から、従来のスタンプ・ラリーに代え、シール・ラリーとして実施した(延べ参加者計1,160名、全回参加者計119名)。

(12) WEB、SNS等を活用した発信

臨時休館中、子ども教室のワークシート、徳川家康人生すごろく、ぬりえ「源氏物語」などをホームページ上に掲載し、ダウンロード可能とした。また、中止・延期となった展覧会の内容を、SNS等で紹介し、「おうちミュージアム」として発信した。

(13) 中高生・大学生の職場体験の受け入れ(インターンシップ)

受け入れ要請は数件あったが、感染症予防の観点から、全てを見合わせた。

(14) 博物館実習の受け入れ

11月17日～11月21日、学生9名が参加し、実施した。

(15) 古美術相談会

原則として、毎月第1土曜日の午後開催し、本年度は、相談件数計2件、2回実施した。その他、写真郵送等による相談件数は、計11件であった。

(16) 名曲講座

2月14日、国際音楽祭 NIPPON 2020 ミュージアム・コンサート I (ヴァイオリン/諏訪内 晶子、ナビゲーター/浦久俊彦ほか) を実施した (参加者計 51 名)。

(17) 館外見学会の実施

6月12日、企画展「祈りのこころ 一尾張徳川家の仏教美術」に関連した見学会を予定したが、中止した。

(18) ボランティア研修

8月27日、10月6日、11月7日、1月5日の各日に、企画展及び名品コレクション展の解説、質疑応答を行った。

(19) 館長講演活動

10月3日 演題「文化を守る」(於、刈谷市歴史博物館記念企画展) 徳川 義崇 (館長)

(20) 出講・受嘱

① 出講

学芸員計6名が、合計8の大学、合計12の博物館・文化センターほかの講座等に出講した。

② 受嘱

学芸部員計5名が、愛知県、名古屋市、博物館等、合計7件の専門委員、研究員等の委嘱を受け、必要業務を遂行した。また、外部機関からの依頼にもとづき、随時職員を派遣した。

4. 協賛事業・事業協力・補助金事業

(1) 協賛事業・事業協力

① 第99回名古屋市文化史教室、夏休み子ども教室を、名古屋市と共催した。

② 「文化のみち雛巡りシール・ラリー」(文化財名古屋保存活用実行委員会「名古屋市文化遺産活用プラン」)

2月6日～3月7日、文化のみち6施設と連携し、各施設にて、雛祭り関連を企画し、パスポートとシール(従来の台紙とスタンプの代替)を配布した。なお、愛知県内の博物館・資料館などを巡る「ひなまつりスタンプ・ラリー」を、2月6日～3月7日に予定したが、中止となった。

③ 観光庁「誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成」における実証事業

尾張藩歴史文化活用実行委員会((公財)名古屋観光コンベンションビューロー、(株)リクルート・ライフスタイル等で構成)が実施した、「誘客多角化コンテンツ造成」モニター調査へ協力し、2月10日、16日、17日、18日、19日、モニターツアー体験者、計21名を受け入れた。

④ 観光庁「博物館・文化財等におけるナイトタイム充実支援事業」

TOKUGAWA NIGHT MUSEUM 実行委員会((株)curioswitch、(公財)名古屋観光コンベンションビューロー、当館で構成)を立ち上げ、「TOKUGAWA NIGHT MUSEUM」を実施した。2月5日～7日に、名品コレクション展示室及び尾張徳川家の雛まつり展の夜間観覧、十二単、能・居合鑑賞を、全3回実施した。

(2) 補助金事業

① 文化庁令和2年度文化芸術振興費補助金(博物館等を中核とした文化クラスター推進事業)

本年度に認定を受けた、「文化観光拠点施設」としての初年度計画の下、以下の項目の実施にかかる助成を得た。

- ・ 新館展示ケース照明 LED 化工事

- ・ 東ロビー空調設備更新
 - ・ 国内外からの観光旅客誘致のための施設活用方法に関するアドバイザー業務
- ② 文化庁の実施する「地域ゆかりの文化資源を活用した展覧会支援事業」の下、以下の項目の実施にかかる助成を得た。
- ・ 企画展「読み継がれた源氏物語」の開催
 - ・ インバウンド向け体験コンテンツ用多言語パンフレットの作成

5. 賛助会・友の会・大学メンバーシップ

(1) 賛助会会員向け優待

以下、各項の優待を引き続き行った。

- ・ 1年間の無料入館
- ・ 企画展・特別展内覧会を開催
各企画展・特別展の開始日前日に、賛助会員内覧会を開催（図録がある場合は、無料配布）
- ・ 美術館日より「葵」及び各種印刷物の配布
- ・ ショップ商品等の割引
- ・ 他館との連携による、各々の会員向け相互観覧料割引（(公財)五島美術館ほか、4館）

本年度の会員数推移は、以下のとおりとなった。

種別	前年度末	本年度入会	本年度退会	本年度末	前年度対比
個人	119	11	28	102	▲17
家族	16	0	2	14	▲2
法人	51	0	6	45	▲6
合計	186	11	36	161	▲25

(2) 友の会会員向け優待

以下、各項の優待を引き続き行った。

- ・ 美術館日より「葵」及び各種印刷物の配布
- ・ 一般会員向け1年間の無料入館制度（ただし、名古屋市蓬左文庫との共催展の観覧は、1回目のみ無料、2回目以降は、割引料金（団体料金）を適用）
- ・ 一般会員向けのミュージアムショップでの割引
- ・ 他館との連携による、各々の会員向け相互観覧料割引（前掲(1)と同じ）

本年度の会員数推移は、以下のとおりとなった。年度更新時期に、感染症拡大防止のため、臨時休館したことの影響もあり、入会を見合わせた会員が多かった。

種別	前年度末	本年度入会	本年度退会	本年度末	前年度対比
一般	696	45	356	385	▲311
法人	23	3	16	10	▲13
合計	719	48	372	395	▲324

※ 一般会員のうち、37名が半期入会（4,400円）の会員

(3) 大学メンバーシップ会員向け優待

- ・ 一般会員向けのミュージアムショップでの割引
- ・ 対象大学の学生と教職員の無料入館（一部、学生のための例外校あり）
- ・ 対象大学への展覧会ポスター・ちらし、イベント案内等の配布、掲示
- ・ 会員登録現在数 23 学校法人（本年度、会員校の変更無し）、関連施設を含め 32 機関

愛知学院大学、愛知学院大学短期大学部、愛知学院大学歯科技工専門学校、愛知県立芸術大学、愛知県立大学、愛知工業大学、愛知淑徳大学、桜花学園大学、名古屋短期大学、金城学院大学*、椋山女学園大学*、中京大学、中部大学、東海学園大学、同朋大学、名古屋学院大学、名古屋学芸大学、名古屋外国語

大学、菱野幼稚園、名古屋ファッション専門学校、名古屋栄養専門学校、名古屋製菓専門学校、名古屋芸術大学、名古屋経済大学、名古屋工業大学、名古屋市立大学、名古屋大学、名古屋文化短期大学、名古屋ビューティー専門学校、南山大学、名城大学*、愛知教育大学

※ 学生のみを対象とした加入

6. 管理

(1) 新型コロナウイルス感染症対策

本事業報告の各所に記述したもののほか、全館的な感染症予防の対策として、以下の項目を実施した。

- ・ 従業員、関係者、来館者の健康・安全衛生管理の徹底
- ・ 従業員の労務管理（オフピーク通勤、就労体制シフトなどの適時見直し、特別休暇付与等）
- ・ 感染症予防対策マニュアルの策定とホームページ上への掲載
- ・ 各所に感染予防対策を促すサイネージ、パネル等の設置
- ・ 来館者玄関、従業員通用口に非接触型体温計を設置
- ・ 館内各所に消毒液を設置
- ・ 展示室、講堂等出入口扉の常時開放（作品保全・防犯上可能な箇所）
- ・ 空調・換気の適切な管理
- ・ 券売所、ミュージアムショップ、事務室等へのアクリル板の設置
- ・ ソーシャルディスタンスを促す足元サインの設置
- ・ 展示室・講堂への入場者数制御及び人的誘導
- ・ 来館者が手を触れる設備・備品等の定期消毒
- ・ 展示室及びロビーにおける対面による展示解説の中止
- ・ ビデオルームの閉鎖
- ・ タッチパネル式所蔵品検索スクリーンの使用停止
- ・ コインロッカーの利用制限
- ・ スタッフ、ボランティアのビニール手袋の使用
- ・ その他

(2) 観覧料金

① 前売りペアチケットの導入

来館者向けサービス向上の観点から、前売りペアチケットの割引販売を継続実施した。適用対象は、秋季特別展「殿さまが好んだヨーロッパ ―異国へのまなざし―」（名古屋市蓬左文庫との共催展）及び特別展「尾張徳川家の雛まつり」とし、会期前の一定期間、チケットぴあ等で、2枚2,300円（即ち、1枚分1,150円）のチケットを販売した。

② オンラインチケットの導入

感染症予防の観点から、非接触型チケットの販売を導入し、あわせて、購入者の利便性を図った。販売手数料もコンビニチケットより低減し、企画展「竹 ―日本の美―」展より、前売券価格で販売を開始した。

(3) 広報

① コロナ禍の影響により、プレスリリースの構成・配信先を見直し、地元観光関係者との関係を強化することとした。また、WEBを活用したPRに注力した。

- ・ WEB上のリスティング広告、イベント情報配信サイトの活用
- ・ YouTube「徳川美術館チャンネル」の利用（前掲3.(7)⑤e.）

② 本年度における、メディアによる取材件数は、以下のとおりであった。

展覧会等	新聞	TV・ラジオ	雑誌等
祈りのこころ ―尾張徳川家の仏教美術―	1	1	2

漆 ー徳川美術館珠玉の名品ー	9	2	16
怪々奇々 ー鬼・妖怪・化け物…ー	11	7	10
殿さまが好んだヨーロッパ ー異国へのまなざしー	11	4	18
読み継がれた源氏物語	3	1	17
竹 ー日本の美ー	7	2	9
尾張徳川家の雛まつり	7	2	1
尾張の百科事典 ー御秘本『張州雑誌』ー	0	1	0
合計	49	20	73

③ 有料広告として、以下の掲示・掲載を行った。

キラッ都ナゴヤ（毎月）、名古屋アートニュース（隔月）、大曽根駅南口看板（常設）、大曽根駅北口看板（常設）、電柱看板（常設）、名古屋コンシェルジュバナー広告など。

(4) 営業

① 団体利用促進のため、以下を行った。

- ・ 旅行会社への働きかけ（関西方面の旅行会社への営業 1 回、ZOOM 商談会 4 回）
- ・ MICE 誘客の働きかけ（ZOOM 商談会 1 回）
- ・ (公財)名古屋観光コンベンションビューローの観光プロモーションへの参加
- ・ 大学メンバーシップのルートを使用した、展覧会情報の提供（ポスター・ちらし配布）

② 個人来館者利用促進のため、以下を行った。

- ・ 旅行会社への広報宣伝協力要請
各旅行会社個人旅行向けパンフレットへの情報掲載（(株)JTB、(株)近畿日本ツーリスト、(株)JR 東海ツアーズ）
- ・ 前売り券の販売促進
百貨店友の会 3 店舗での販売（利用実績 427 枚）
チケットぴあ、ローソンチケット、プレチケでの前売り券販売（利用実績 1,960 枚）
- ・ 特別鑑賞券セットを、オンラインで販売（特別展「尾張徳川家の雛まつり」展にて、100 セット販売）
セット内容は、特別鑑賞券 1 枚又は 2 枚・図録（限定カバー付）1 点・缶ドロップ 1 点
- ・ YouTube「徳川美術館チャンネル」の利用（前掲 3.(7)⑤e.）
- ・ 各種スタンプ・ラリーの実施（外部団体と連携したものを含む）
- ・ 名刀シール・ラリー（前掲 3.(11)）
月刊なごやか「ミュージアム・スタンプ・ラリー」（年間）
JAF 近たびデジタルスタンプ・ラリー（2～3 月）
- ・ 「文化のみち雛巡りシール・ラリー」（前掲 4.(1)②）

③ 閉館後・休館日等における時間外の利用誘致

夜間開館・休館日貸切開館の実施（利用実績（夜間 3 件））及び「TOKUGAWA NIGHT MUSEUM」の開催（前掲 4.(1)④）

(5) ボランティアの会

① 会員数推移は以下のとおりであった。

平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度
285	293	280

② 活動内容

公募ボランティアにより、展示室内の見守り活動を行った。なお、感染症予防の観点から、随時、展示解説、体験等の活動は休止した。

(6) 徳川美術館運営懇話会

第 29 回目として、当初 10 月に開催を予定したが、感染症予防の観点から中止とした。

- (7) 徳川園各施設連絡調整会議
徳川美術館、徳川園、名古屋市蓬左文庫、宝善亭、ショップ葵、ガーデンレストラン徳川園により、月次定例会議を開催。1月に予定した本部を含む総会は、感染症予防の観点から中止とした。
- (8) 他館・博物館との連携
私立美術館会議、(公財)日本博物館協会、愛知県博物館協会等の諸活動への参加
- (9) 地域との連携
前掲 4.(1)①、②、③に記載
- (10) 施設・設備の保守点検・営繕
空調機（一部）のチラー交換取替工事、室外機メンテナンス、新館第 1 室・2 室・5 室の壁付展示ケース照明の LED 化等、周辺民家に隣接する、敷地内庭園樹木の一部伐採等を実施した。
- (11) 国庫補助金による事業
前掲 1.(2)②a.に記載
- (12) 民間助成金による事業
前掲 1.(2)②a.b.に記載
- (13) 活動支援基金による事業
 - ① 寄附金受付業務
前年度に引き続き、公募活動を励行した。また、本年度は、寄附者にとっての利便性を高め、寄附機会の拡大を実現すべく、遅滞していた具体的な業務改善を履行した。当館ホームページ上における寄附公募案内の充実、クレジットカード決済機能の付設を図り、3月以降、運用を開始した。これらを経た結果、本年度は、6,935,545 円（法人 6 件、1,630,000 円、個人 122 件、5,083,000 円、館内設置募金箱、22,266 円、お雛さまの赤い糸募金、200,279 円）の寄附金を受領した。なお、当該寄附金（活動支援基金）の用途として、美術品の修復・補修費用に充当した（前掲 1.(2)②a.）。
 - ② 感謝状の贈呈
高額寄附者（個人 30 口以上、法人 10 口以上）に対し、感謝状を贈呈した（個人会員 12 名、法人会員 1 社）。

[公益目的事業 2] 研究所の調査・研究・教育・普及事業（徳川林政史研究所）

令和 2 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、出張調査を概ね中止するなど、当初事業計画の変更を余儀なくされたが、当研究所ホームページの全面改訂を実施するなど、所内業務を中心に、以下の事業を推進した。尾張藩関係では、来年度の刊行に向けて、第 2 代藩主、徳川光友の事蹟『瑞龍公実録』の編纂を進行中である。林政史関係においては、昨年度に引き続き、『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化』を 2 冊刊行するとともに、尾張藩御山守の史料集、『明和五年 御山方御用并諸事日記』を翻刻・刊行した。教育普及活動では、一部の事業が延期・中止となったものの、受講者人数を制限、オンライン配信するなどして、講座を開催した。若手研究者育成に関しては、在宅作業として、若手研究者に古文書解読やデータ入力を依頼し、所員が解読指導に当たった。ここでの翻刻史料は、今後の史料集刊行や、研究・公開活動に活用予定である。また、新ホームページに、当研究所所蔵史料の検索機能を追加することにより、利用者の利便性を高めた。コロナ禍による影響も少なくなかったが、在宅勤務における作業などに支えられ、調査・研究活動を遂行し得たと考える。

1. 調査・研究

(1) 研究所における研究（括弧内は開始年度）

- ・ 近世材木流通史の研究（平成 11 年度） 竹内 誠（名誉所長）
- ・ 名古屋城の構造と儀礼に関する研究（平成 27 年度） 深井 雅海（所長）
- ・ 尾張藩幕末維新史の研究（平成 24 年度） 藤田 英昭（研究員）
- ・ 近世の地域社会における山林利用に関する研究（令和 2 年度） 萱場 真仁（研究員）
- ・ 近代山村史の研究（平成 26 年度） 加藤 衛弘（筑波大学教授・特任研究員）
- ・ 近世尾張藩領木曾山における山林原野用益権の存在形態（令和 2 年度）
大崎 晃（特任研究員）
- ・ 近世林野の実態と利用に関する研究（令和 2 年度） 脇野 博（特任研究員）
- ・ 尾張藩祖徳川義直の研究（平成 30 年度） 川島 孝一（非常勤研究員）
- ・ 尾張藩主の犬山御成に関する研究（平成 30 年度） 池ノ谷 匡祐（非常勤研究員）
- ・ 犬山旧藩士族の旧藩意識に関する研究（令和 2 年度） 林 幸太郎（非常勤研究員）

(2) 徳川美術館との連携

- ・ 古文書講座・江戸学講座へ講師派遣

新型コロナウイルスの影響により、古文書講座を中止とした。江戸学講座は、全 4 回のうち、2 回を、当財団本部からのリモート開催とした。その他、歴代当主の事蹟や年譜、尾張藩政に関する情報を共有するなど、徳川美術館学芸員と密接に連絡を取り合い、相互の研究を深化させるべく努めた。

(3) 研究成果の公開・公刊

① 研究会の開催（すべて当研究所にて開催）

- ・ 9 月 14 日 大名華族と同郷会 林 幸太郎
- ・ 10 月 23 日 尾張藩主の犬山御成 池ノ谷 匡祐
- ・ 10 月 30 日 御山方御用并諸事日記にみる山村の縁組 高木 まどか
- ・ 11 月 20 日 加子母村における家族の看取り 萱田 寛也
加子母村における洪水発生と橋木願 浅井 良亮
- ・ 12 月 7 日 近世中期濃州三ヶ村における杣頭の活動 萱場 真仁
徳川慶勝御手許のペリー来航関連図像と「諸品新聞書」 藤田 英昭

② 『金鯨叢書』第 48 輯（『研究紀要』第 55 号）の公刊

- 将軍家長男の七夜祝儀における刀剣献上 深井 雅海
- 尾張藩領木曾山における山林野入会地の用益形態 大崎 晃
- 秋田藩領白神山地と秋田国有林 脇野 博
- 熱田東浜御殿・西浜御殿の成立と終焉及び構造の分析 原 史彦*

徳川慶勝御手許のペリー来航関連図像と「諸品新聞書」

藤田 英昭

大名華族と同郷会

林 幸太郎

※ 名古屋市名古屋城調査研究センター主査（前徳川美術館学芸部長代理）

・ 史料調査成果報告

内木家所蔵史料調査の経緯と所蔵史料について

萱場 真仁

近世中期における杣頭の活動実態

萱場 真仁

近世加子母における災害と御山守

浅井 良亮

近世山村における離縁

高木 まどか

加子母村における家族の看取りと死生観

萱田 寛也

・ 研究ノート

尾張藩主の犬山御成

池ノ谷 匡祐

・ 活動報告

令和2年度の調査・研究・普及活動

・ 所蔵史料目録

当研究所所蔵 尾張徳川家文書目録（十七）

当研究所所蔵 石河家文書目録（十三）

以下の各書を、大学等、学術研究機関、図書館、個人あてに寄贈・送付した。

『金鯨叢書』第47輯（『研究紀要』第54号）、印刷部数550冊（うち、寄贈・交換498冊）

『研究紀要』40・41号、各1冊ずつ、『研究紀要』昭和46・47・57・58年度、24～26号、28～31号、33～48号、『金鯨叢書』43～47輯、各1冊ずつ

③ 所蔵史料の編集・刊行

なし

④ 史料調査の成果公開（ブックレット、史料集の刊行）

『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化3 尾張藩林政のなかの御山守』、『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化4 四季折々の暮らしと文化 -江戸時代の“かしも生活”②-』の編集・刊行

『内木家文書 明和五年「御山方御用并諸事日記」』の編集・刊行

(4) 「尾張徳川史」編纂準備

① 『瑞龍公実録』編纂・刊行のための研究会を開催（2回）

② 「(宗春御代) 御家御日記」「(宗春御代) 公辺御日記」データベース作成（「公辺御日記・御家御日記」、全172冊のデータ入力完了）

③ 「事蹟録」（旧蓬左143-6）、全128冊筆耕作業中（1～103冊まで終了）

(5) 尾張徳川家関連資料の調査・研究

古写真史料の研究に資するため、引き続き、ガラス板古写真のデジタルデータ化を実施した。

(6) 史料調査

① 林政史アーカイブズ調査

8月8日～8月9日、岐阜県中津川市加子母地域史料調査

② 研究資料（複写・写真撮影資料を含む）の調査・収集

新型コロナウイルスの感染拡大により、出張調査中止

③ 収集史料データの整理及び公開

岐阜県歴史資料館所蔵史料の複製本公開（高山陣屋文書のうち、幕府林政に関する基礎史料、計128冊）

(7) 調査・研究における他機関との連携・協力

① 名古屋市蓬左文庫

当研究所所蔵史料の一部を紙焼きし、名古屋市蓬左文庫へデジタルデータで提供し、閲覧公開に協力

した。

② (公財)犬山城白帝文庫

(公財)犬山城白帝文庫と研究協力に関する覚書を取り交わし、調査・研究にあたった。ただし、新型コロナウイルスの感染拡大により、出張調査は実施せず、紀要論文執筆のため、白帝文庫所蔵史料データ、計 392 コマの提供を受けた。

③ (公財)徳川記念財団

当研究所では、受託史料として、徳川宗家(旧将軍家)に伝来した史料、約 5,130 点を保管しており、これら伝来品の活用を図る目的で設立された、(公財)徳川記念財団が、調査・展示などで保管史料を利用する際に、史料出納をはじめ、調査への助言、閲覧室・写真撮影場所の提供、貸し出しの立ち会い等の協力を行っている。本年度は、同財団が実施した、展示事業・閲覧など、以下 6 件について、協力した。

・ 展示事業

4月8日 「孝明天皇宸筆 徳川慶喜宛書状」ほか、11件

9月3日 「孝明天皇宸翰」碁将棋上覧之留」ほか、10件

「大政奉還勅許写」ほか、3点

・ 史料閲覧

10月16日 「琉球之使者拜礼之節御意之振」ほか、2点

2月19日 「東照宮御実紀」ほか、3件

3月29日 漢籍ほか

④ 愛知県公文書館

愛知県史編さん委員会が、県史編さんのために収集した、当研究所所蔵史料の紙焼き(データ点数、計 11,356 点)を、12月23日より、愛知県公文書館にて公開した。

2. 史料・図書 of 整理

(1) 所蔵史料 of 整理

① 旧蓬左文庫所蔵絵図 of 整理・目録 of 作成

再整理し、総数 277 件のうち、267 件のカード目録を作成した。

② 旧名古屋税務監督局所蔵史料 of 整理・目録 of 作成

総数 3,312 件のうち、3,245 件の番号確定作業が終了した。

③ 信濃国木曾史料 of 整理・目録 of 作成

総数約 2,260 件のうち、計 1,163 件のカード目録を作成した。

④ 三河国額田郡小呂村文書 of 整理・目録 of 作成

総数 58 件のうち、58 件のカード目録を完成した。

⑤ 蜂須賀雨竜農場文書 of 整理・目録 of 作成

75 件のカード目録を作成した(状態 of 史料大多数につき見積総数※不明)

(2) 所蔵史料 of 目録刊行

① 尾張徳川家文書目録(十七)を『金鯨叢書』第 48 輯(『研究紀要』第 55 号)に収録刊行した。

② 石河家文書目録(十三)を『金鯨叢書』第 48 輯(『研究紀要』第 55 号)に収録刊行した。

(3) 所蔵史料データベース of 構築及び保存

① 尾張徳川家文書 of データベース化

「尾 5」577 件のデータを入力した(見積総数※10,009 件のうち、計 8,490 点完了)。

② 信濃国筑摩郡王滝村松原家文書 of データベース化

807 件のデータを入力した(総数 8,005 点、全て完了)。

※ 見積総数

各史料群 of 点数は、整理開始時 of 概算によるものであり、今後の史料整理により、新たに史料が確認

されて、点数が増加する見込みであるため、整理中のものについては、現時点で「見積総数」と表記している。

(4) 史料のデジタルデータ化

① 所蔵古写真（ガラス板）のデジタルデータ化（計 12 点、12 カット）

デジタル化対象のガラス板古写真、計 261 点のデジタル化を完了

② 所蔵史料のデジタルデータ化

・ 外部委託

デジタル撮影「尾張八郡図」ほか、計 13 点、66 カット

マイクロ撮影及びスキニング「御役木切畑運上御願被仰出之帳」ほか、計 6,836 コマ

・ 自館でのデジタルデータ化（デジタルマイクロリーダープリンター導入による）

「木材取締記録」、「徳川義宜家記」、「竹腰家雑記」ほか、計 6,178 コマ

③ 調査収集史料写真のデジタルデータ化

（公財）犬山城白帝文庫所蔵史料（デジタルデータ、計 392 コマ）

名古屋市蓬左文庫所蔵史料（複写史料、計 380 枚）

(5) 史料の購入・補修（活動支援基金ほか）

① 購入

「富塚彭成（旗本用人）旧蔵手控」1 冊

「尾張藩館記録」1 冊

「慶長年中伏見城大名屋鋪図写」1 鋪

② 補修

綴じ紐劣化史料の紐綴じ直し補修、計 70 冊（旧蓬左文庫所蔵史料「御記録」ほか）

絵図補修 1 鋪（続林絵図「伏見城下絵図」）

③ 受入

太田 勝也氏（特任研究員）旧蔵史料（「貸預有物品々抜書控」ほか、計 88 点）

(6) 書庫内の整理ほか、保存環境の保全

(7) 研究用図書 of 整理

① 図書整理

昨年度に引き続き、図書・雑誌の書誌データ入力を進め、新着図書、計 231 冊に対し、ラベル貼付並びに入力作業を行った。

② 図書の購入・受贈

図書は、『東京大学史料編纂所影印叢書 1 島津家文書 歴代亀鑑・宝鑑』等、計 96 冊を購入。その他、寄贈された図書、計 135 冊。雑誌は、『歴史学研究』等、計 144 冊を購入。その他、寄贈された雑誌、計 269 冊。

3. 教育・普及

(1) 講座・講演

① 徳川林政史研究所公開講座・豊島区教育委員会共催

9月10日・24日 森林がつなぐ人・地域 萱場 真仁

9月17日・10月1日 江戸無血開城の真実 藤田 英昭

② 徳川美術館「江戸学講座」

12月5日 徳川義直の刀剣献上・贈与 深井 雅海

1月9日 徳川義直の治世と付家老 白根 孝胤

1月16日 徳川義直の人生と思想（オンライン配信） 川島 孝一

2月6日 徳川義直をめぐる女性たち（オンライン配信） 藤田 英昭

③ その他の講演

- ・ 深井 雅海
 - 6月4日 享保の改革 調布市日本史を学ぶ会
 - 全4回（6月4日、7月16日、9月17日、11月19日）
 - 10月15日 将軍の言葉にみる格式 調布市日本史を学ぶ会公開講座
 - 11月28日 江戸城の構造とその仕組み 駒澤史学会公開講座
- ・ 藤田 英昭
 - 7月26日 天璋院篤姫も学んだ淘宮術 淘宮発表記念講演会（オンライン講演会）
 - 9月13日 幕末三舟の一人・高橋泥舟 江戸楽アカデミー
 - 11月28日 徳川家康を取り巻く女性たち 明海大学オープンカレッジ

(2) 外部機関などとの連携

- 11月16日 東京大学大学院農学生命科学研究科「森林政策学演習」 受講生・教員

(3) ホームページによる情報発信

当研究所ホームページの全面リニューアルに向け、外部委託して作業を開始し、3月末に完了した。

(4) 出講・受嘱

① 出講

- ・ 藤田 英昭
 - 大東文化大学 日本近世・近代史史料演習 A・B（前期・後期）、日本史概説 A・B（前期・後期）、日本通史 A・B（前期・後期）
 - 学習院女子大学 学習院史 I（前期）
- ・ 萱場 真仁
 - 学習院大学 古文書学演習（前期・後期）
 - 学習院女子大学 学習院史 II（後期）

② 受嘱

- ・ 藤田 英昭
 - 大田区立勝海舟記念館資料収集評価委員会委員

4. 若手研究者の育成

(1) 非常勤研究員・研究生による研究会の開催

新型コロナウイルスの感染拡大により、夏季・春季の研究集会を中止とした。

(2) 非常勤研究員・研究生による史料整理・目録作成作業

同上の事由により、夏季・春季の集中史料整理を中止とした。

(3) 非常勤研究員・研究生の名古屋研修の実施

同上の事由により、中止とした。

(4) 在宅作業

同上の事由により、非常勤研究生に対し、在宅作業として、古文書史料の翻刻を依頼し、翻刻者には、月1回程度の出勤を促し、研究員が解説の指導に当たった（翻刻史料は、「礼物軌式」、「事蹟録」、「御山方御用并諸事日記」など）。

5. 閲覧・出陳・レファレンス業務

(1) 史料閲覧

閲覧許可数は、計16件、延べ閲覧者数は、計25人であった。

※ 新型コロナウイルス感染症拡大を受け、4月8日～9月7日、1月20日～期末まで、閲覧受付業務を停止

(2) 所蔵史料の出陳

- ① 「特別展 家康から義直へ 一尾張藩誕生物語」（徳川美術館）

会期：4月12日～5月31日（中止）

出陳史料名：木曾谷并三ヶ村之図ほか、計3件（7点）

- ② 「特別展 渡邊半蔵家 ―徳川を支えた忠義の槍―」（豊田市郷土資料館）

会期：1月30日～4月11日

出陳史料名：万留帳ほか、計15件（15点）

- (3) 所蔵史料写真の貸し出し及び複写サービス

- ① 所蔵史料写真の貸出及び複写

受付総数、計86件（林政史研究所直接受75件、愛知県公文書館受付の紙焼き史料複写申請11件）

- ② 蓬左文庫受付の二次複写申請

受付総数、計13件（DVDからの複写0件、紙焼き史料の複写13件）

- (4) レファレンス対応

閲覧来所者及び電話でのレファレンスに対応した。

6. 補助金関係

- (1) 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（特定奨励費）

申請者名：（公財）徳川黎明会徳川林政史研究所

研究事業：近世・近代の“森林管理システム”に関する調査・研究・普及事業

交付機関：（独）日本学術振興会*

交付金額：10,400,000円

※ 平成26年度より、特定奨励費の交付業務は、文部科学省から（独）日本学術振興会へ移管されている。

- (2) 特定奨励費以外の科学研究費助成事業

- ① 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）

研究種目：基盤研究(A)

研究課題：高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究

交付機関：奈良国立博物館（（独）日本学術振興会）

交付金額：150,000円

研究者名：徳川美術館 学芸部学芸員 安藤 香織（研究分担者）

- ② 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）

研究種目：基盤研究(A)

研究課題：近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究

交付機関：東京国立博物館（（独）日本学術振興会）

交付金額：246,000円

研究者名：徳川美術館 学芸部学芸員 安藤 香織（研究分担者）

- ③ 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）

研究種目：基盤研究(A)

研究課題：戦国軍記・合戦図の史科学的研究

交付機関：共立女子大学（（独）日本学術振興会）

交付金額：350,000円

研究者名：徳川美術館 学芸部学芸員 薄田 大輔（研究分担者）

- ④ 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）

研究種目：基盤研究(B)

研究課題：江戸武家地の成熟過程に関する建築史・都市史的研究

交付機関：筑波大学（（独）日本学術振興会）

交付金額：250,000円

研究者名：徳川林政史研究所 非常勤研究員 渋谷 葉子（研究分担者）

(3) その他の競争的資金及び民間助成金等

助成金名： (公財)上廣倫理財団教育・研究・活動助成金
申請者名： 徳川林政史研究所 所長 竹内 誠
事業名称： 歴史学研究の発展に貢献できる若手研究者の育成
助成機関： (公財)上廣倫理財団
交付金額： 5,000,000 円

7. 事業評価委員会の開催

3月15日、外部委員による事業評価委員会により、当研究所が実施した本年度事業について、評価・講評を受けた（新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、紙面による評価となった）。

8. 資産の取得

- ・ 図書資産

購入、計 96 冊、受贈、計 68 冊

9. 設備管理

- ・ 建物・設備の営繕工事等

本部建物玄関ドア腐食修理

本部建物正面斜屋根雨樋防水工事

空調設備ロールフィルター交換

10. 活動支援基金による事業

寄附金受付業務

前年度に引き続き、公募活動を励行した。本年度は、290,000 円（法人 0 件、個人 19 件（29 口））の寄附金を受領した。なお、当該寄附金（活動支援基金）の用途として、新規史料の購入や史料補修に充当した。

- ・ 購入

「冨塚彭成(旗本用人)旧蔵手控」(前記 2.(5)①) ほか、計 3 件（合計 2 冊と 1 鋪）

- ・ 補修

綴じ紐劣化史料の紐綴じ直し補修、計 70 冊（前記 2.(5)②）、旧蓬左文庫所蔵史料「御記録」ほか）
続林絵図「伏見城下絵図」1 鋪

Ⅲ.収益事業

[収益事業 1] 不動産賃貸事業（本部・総務部）

不動産賃貸

外国人向け住宅の賃貸（全 6 棟）

[収益事業 2] ミュージアムショップ・宝善亭等の運営事業（徳川美術館）

1. ミュージアムショップの運営

本年度の売上は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のための臨時休館による来館者数減少、また、これを事前に予測し、新規オリジナルグッズの製作などを抑制したことから、大幅に減少した（対前年度比 23.3%）。

2. 宝善亭・コーヒーラウンジの利用促進

展覧会のテーマに合わせたメニューの開発や WEB サイト、SNS 等での広報・宣伝に努めたが、同上の事由により、大幅に減少した（宝善亭の売上は、対前年度比 36.0%、コーヒーラウンジは、対前年度比 21.5%）。

事業報告の附属明細書

令和 2 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、作成していない。